

太陽ビジネスクラブ 岸 博幸 特別講演会

「これからの日本経済と企業に求められる経営戦略」



太陽ビジネスクラブでは、2023年11月17日金曜日に、経済評論家の岸博幸さんの講演会を、MRTミミックダイヤモンドホール（宮崎市）で開催しました。会場は、太陽ビジネスクラブの会員様など約130名が来場されました。

【岸 博幸 氏】
1962年 東京都生まれ。
1986年 一橋大学経済学部卒業
同年4月 通商産業省入省
2001年 経済財政政策担当大臣補佐官
2002年 金融担当大臣補佐官を兼任
2004年 経済財政政策担当大臣・
郵政民営化担当大臣秘書官
2005年 総務大臣秘書官
2006年 通商産業省退官
慶応大学DMC統合研究機構助教授に就任
2008年 慶応大学大学院メディアデザイン研究科教授
に就任
2020年 内閣官房参与
同年9月 内閣官房参与を辞職

「30年続いたグローバル社会は終わり日本は今、時代の変わり目にある。五つの構造変化を乗り越えれば九州・宮崎のチャンスは増えるだろう。」と岸博幸さんは言います。

一つ目は人口減少。国連の統計では、2050年からアフリカを除く国が人口減社会へ突入する。産業革命以来の人口増社会が300年ぶりに減少へ転じ、人口減は世界のすう勢となり、人材の奪い合いが世界に広がる中、「外国人労働者が日本を選んでくれるだろうか。」

二つ目は国際情勢の変化。自由主義国家と覇権主義国家の2極対立で、グローバル社会は終焉すると見ている。労働力の安い国で製造するという国際分業は終わる。「台湾が熊本県にTSMCを立地したように、この変化は地理的優位にある九州・宮崎にとってプラスとなる。」

三つ目はDX（デジタルトランスフォーメーション）。世界各国が1990年代からDXを推し進める中、日本では各業界の反発で30年遅れとなっていた。それがコロナ禍を機に動き出し、遠隔での勤務や医療、教育が可能になった。「地方の中小企業にとってDXは課題であるが、チャンスでもある。」

四つ目はGX（グリーントランスフォーメーション）。世界ではCO2削減はやって当たり前。既に次のステップにある。持続可能な地球にするには経済最優先ではなく、経済・社会・環境が調和した発展を目指すべきとするもの。若者の意識変化は早く、「いい環境に住みたい」という思いは強まっており、宮崎にとって一番の武器になる。

五つ目はデフレの終焉。30年続いたデフレは終わり、インフレというノーマルな時代に戻る。なるべくお金を使わない生活から、現金を持つのが愚かになる社会へ。正反対の行動スタイルに切り替えられるかどうか分かる道となる。

大きな構造変化の中で私たちは、地元を活性化すれば人は勝手に増えていく。福井県鯖江市がその好例。地理的にも気候にも恵まれていないが「眼鏡に次ぐ産業を作っていいこう」と改革を進めた結果、文化観光都市としてよみがえった。

企業誘致も「来てほしい」とお願いするのではなく、「来たい」と思ってもらえる町をつくることだ。その点、気候、産業に恵まれた宮崎のポテンシャルは高い。

「宮崎は米国マイアミを目指すのがいいのでは。」マイアミも交通は不便だが、気候が良くゴルフがいつでもできる街。富裕層の移住が多く、起業する若者も増えている。

企業体質を強化するには、自力でイノベーションに挑まなくてはならない。生産性が上がれば賃金は上がる。情報が集まる銀行を使い倒すくらいの気持ちでイノベーションを創り出し、しゃかりきに頑張ってほしい。

最後に、岸博幸さんは、「宮崎は半導体投資に湧く熊本のように来られるポジションにある。ぜひ、頑張ってください」と会場の皆さんにエールを送りました。